

アナログアキュライザーの活用(2)

—DSD 録音(2)—

1. 始めに

システムに何らかの手を加えた場合、その音質を試聴して報告するとともに、TASCAM DA-3000 で録音して残すことにしています。今回、アナログアキュライザーの導入にともなう音質の記録として、BPODCH と放送録画から録音しました。

2. アナログアキュライザーの DSD 録音と試聴方法

今回は、BPODCH と放送録画から録音してみます。下記のように DA-3000 への AACU-1000 の装着効果をみます。

BPODCH および放送録画

DMR-UBZ1→DACU-500→Sonica DAC→AACU-1000→DA-3000

録音は、TASCAM DA-3000 にアナログ入力し、DSF 5.6MHz で録音します。TASCAM DA-3000 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを入力しています。

Sonica DAC から DA-3000 に直接入力するために、通常のバランス入力でなく、アンバランス入力の経路を採っています。

TASCAM DA-3000 の SD カードから録音済音源を **fidata** にコピーし、**fidata** から読み出して、MYTEK Brooklyn DAC+経由で再生します。

3. アナログアキュライザーの DSD 録音の試聴結果

アナログアキュライザーを加えた DSD 録音音源を **fidata** から読み出して MYTEK Brooklyn DAC+経由で再生したところ、BPODCH および放送録画からの録音のいずれも、ライブ録音のリアル感満点、迫力満点の印象です。BPODCH のファリヤの三角帽子、BS 録画のグラインドボールの魔笛のパパゲーノの歌唱とも生の演奏を聴いているかのような印象です。

BPODCH のルガンスキーと BS 録画のトリフォノフのパガニーニの主題による狂詩曲は、アナログアキュライザーを使用するまえの録音がありますので、聴き比べてみました。するとアナログアキュライザーを使用した場合には、間接音がより鮮明になり、バックのオーケストラの楽器の質感が生々しくなり、アナログアキュライザーを使用する前では、少し粗さが残っていることが分ります。

4. まとめ

アナログアキュライザーの効果が、BPODCH と放送録画再生における DSD 録音で

も確認できました。

以上